

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031

上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%、住民税3%）軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所得税7%、住民税3%）は廃止され、本来の税率である20%（所得税15%、住民税5%）となりました。
これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

*配当金に関する支払調書

*単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。
株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

株式市場移行のお知らせ

当社株式は、東京証券取引所並びに名古屋証券取引所の市場再編により、東京証券取引所市場第二部からスタンダード市場へ、名古屋証券取引所市場第二部からメイン市場へ移行いたしました。

株主優待

当社は株主優待制度として、毎年2月20日現在の株主様名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様方に対し、株主様ご優待品を進呈いたしていましたが、現在の経営環境並びに将来への成長投資に向け、財務状況を改善することが最優先課題であると考え、慎重に議論を重ねました結果、2023年2月20日を基準とする株主優待より休止することといたしました。

今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、企業価値向上に取り組むとともに、株主優待制度につきましては、業績の安定化並びに財務状況の改善を成し遂げたのちに再開させて頂く予定です。

株主の皆様方におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



コロナ禍を乗り越え、新たな成長に向け再始動してまいります

当社グループは、前期におきまして基幹事業の立て直しに最優先で取り組むとともに、成長事業への投資を継続するほか、EC発の新規ブランドをスタートさせるなど、新型コロナウイルス感染症収束後の再成長に向け各施策に取り組んでまいりました。そして今期は「中期経営計画」の初年度であり、アパレル事業の収益改善と雑貨事業の出店拡大を推し進めるほか、引き続きグループをあげてコスト削減に注力するなど、新たな成長に向けて再始動しております。

代表取締役社長 **福井 正弘** **指針** **正しい経営** | **ローコスト経営**
安定成長 | **人財経営**

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第38期第2四半期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第38期第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、3月下旬に新型コロナウイルス感染症拡大が一服し、行動制限の緩和により、ゴールデンウィークには各地で人流が回復するなど経済活動が活発化しましたが、その後7月中旬の感染再拡大を受け、行動制限はないものの再び経済活動は停滞しました。また、ウクライナ情勢の緊迫化、中国の都市封鎖によるサプライチェーンの混乱、円安、資源高の影響による景気の下振れリスク等もあり、全体的に回復基調ではあるものの景気の先行きは不透明な状況が継続しております。

当社グループが属する専門店業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限が緩和されたこともあり、外出着需要は一定程度回復しました。また、ネット通販の拡大傾向は続くものの、実際に試着のできるリアル店舗との連動性を求めるなどの変化も見られました。

このような環境の中、当社グループにおきましては、業績の早期回復と収益体質の抜本的な改革を目的とした「中期経営計画」を策定し、強いアパレル事業の再構築と好調な雑貨事業の拡大による収益の二本柱体制への事業構造改

革を推進するとともに、仕入れと在庫の適正化のためのガバナンス体制の強化など各施策を進めてまいりました。そしてこの上半期は、前期に引き続きアパレル事業における不採算店舗の退店並びに店頭在庫の鮮度改善を進めたほか、雑貨事業における新規出店に加え、アパレル業態から300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」への業態変更による出店拡大が奏功し、一定の成果をあげることができました。また自己資本の改善を目的に、復興支援ファンドを引受先とした優先株式の発行により2億65百万円の資金調達を完了しており、自己資本比率については前期末から8.1ポイント改善の12.3%となり、財務基盤の健全化にも努めてまいりました。

下半期におきましては、新型コロナウイルス感染症の長期化に加え、円安による原価高騰の影響なども見据え、マーケット環境への柔軟な対応、収益の更なる改善を果たし、新たな成長に向けた取り組みに邁進してまいります。

そして今後も当社グループにおきましては、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後におきましても当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q1 当第2四半期連結累計期間の業績についてお聞かせください

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高92億54百万円(前年同期比7.7%増)、営業利益4億22百万円(前年同期は営業損失3億11百万円)、経常利益4億86百万円(前年同期は経常損失3億17百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益4億61百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失5億6百万円)となりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、第1四半期の3月中は例年より気温が低く推移し、客数が伸び悩みましたが、3月下旬以降は「まん延防止等重点措置」が全面的に解除されたことに加え、コロナ禍において初めてとなる行動制限のないゴールデンウィークにより通常の営業が可能となりました。その後、第2四半期におきましても、7月中旬以降に感染第7波により感染者の再拡大が見られたものの、行動制限のない夏休み、お盆となり、客数の落ち込みは軽微にとどまりました。

このような環境の中、特にアパレル事業におきましては、ゴールデンウィーク前に気温が上昇したことや、早期に梅雨明けした6月末以降に猛暑となったことで客数が回復傾向となり、初夏、夏シーズン商品の需要が高まり売上を伸ばすことができました。

雑貨事業におきましても、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」において、冷感素材の夏シーズン商品が気温の上昇とともに販売が伸びるほか、不織布のマスクを中心とした衛生関連の商品も安定した売上確保につながるなど堅調な推移となりました。以上のような状況から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた前年からの反動もあり、全社の既存店売上高前年同期比は、114.4%となりました。

利益面におきましては、荒利益率の高いアパレル事業の店舗退店とアパレル業態から「illusie300」への業態変更を推進したことにより、雑貨事業の売上高構成比が高まったことで、売上総利益率は前年同期に比べ0.5%の低下となりました。また、経費面におきましては、不採算店舗の退店による固定費削減に努めるほか、本社、本部人員の効率的な配置転換並びに徹底したコスト削減に努めた結果、営業経費は前年同期比91.2%となり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のいずれも増益となり、黒字化を果たすことができました。

店舗の出退店におきましては、「illusie300」を中心に新規で3店舗を出店する一方で、コロナ禍において業績の回復が見通せない店舗を中心に、62店舗を退店した結果、当第2四半期末店舗数は321店舗となりました。

今期は新型コロナウイルス感染症再拡大の影響を受けながらも、アパレル事業における仕入れと在庫の適正化のためのガバナンス体制強化により、店頭在庫の鮮度改善が図られたほか、雑貨事業による出店拡大が奏功し、一定の成果をあげることができました。この下半期におきましては、アパレル事業の収益を改善させ、引き続き雑貨事業の収益拡大を図るとともに、2期連続となった赤字に終止符を打ち、通期の黒字化を果たしてまいります。

Q2 コロナ禍での、下半期施策についてお聞かせください

下半期におきましては、引き続き「中期経営計画」における強いアパレル事業の再構築と雑貨事業の更なる拡大により、収益の二本柱体制を確かなものにするべく、「事業構造改革の推進(事業ポートフォリオの再構築)」、「ガバナンス体制の強化(変化対応力の強化による業績安定化)」、「成長戦略(出店戦略、EC販売強化)」の3つに取り組み、収益構造の改革を行うことで最終年度の2025年2月期には、売上高200億円、営業利益9億円を実現し、有利子負債の圧縮と純資産の回復に努めてまいります。

「事業構造改革の推進」につきましては、引き続きアパレル事業を中心に不採算店舗の退店による固定費削減に努めるとともに、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」への業態変更を推進し、全店舗の収益力向上に注力してまいります。また個店単位でのMD(マーチャンダイジング)の見直しを進めるほか、上半期に引き続き徹底したコスト削減にも努めてまいります。

「ガバナンス体制の強化」につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況において、適正な在庫管理体制を構築すべく組織改編を実施しており、売上高の変動に応じた仕入、在庫管理におけるガバナンス体制を構築し、各部署、部門からの複数の目によるチェック体制を強化しております。今後はアパレル事業中心にトップラインの向上とともに、値下げ販売の抑制により売上総利益の確保に努めてまいります。

「成長戦略」につきましては、引き続きコロナ禍においても順調に業績を伸ばしている「illusie300」を中心に、新規出店やアパレル業態からの業態変更により店舗数拡大を進めるほか、店舗の大型化による売上拡大並びに安定供給のための物流体制を整備するなど、次なる目標の売上高100億円体制に向け経営資源を集中してまいります。また、この10月にアパレル事業におけるEC発の新規ブランド「NOEMIE(ノエミー)」1号店を、ファッションの激戦区である原宿竹下通りにオープンしております。これまでEC事業(ネット通販)を中心に販売してまいりましたが、今後は更なる認知度向上と新規顧客の獲得とともに、ネットとリアル店舗の融合による収益の拡大に努めてまいります。また主力のラージサイズ業態につきましても、SNSを活用した集客の拡大を図ってまいります。

以上、この下半期におきましては、新型コロナウイルス感染症の長期化に加え、円安による原価高騰の影響等、引き続き厳しい環境が続くことを前提に、今期の業績予想につきましては、売上高174億円(前年同期比2.8%減)、営業利益4億50百万円(前年同期は営業損失7億9百万円)、経常利益5億円(前年同期は経常損失6億74百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益4億90百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失13億93百万円)を見込んでおります。

アパレル事業の概況

General Condition of Apparel Business

アパレル事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により外出着需要の回復が低調であることを受け、新規出店を抑制するとともに、不採算店舗の退店を進め収益力のある店舗への品揃え対応強化に注力してまいりました。

密を避けるための行動様式からネット通販市場が拡大しておりますが、コロナ禍においても行動制限が緩和されたこともあり、リアル店舗の重要性が高まりつつあります。引き続き、店舗における接客サービスの充実並びにコロナ禍を踏まえた仕入と在庫の適正化に注力し、収益の回復に努めてまいります。

Ludic Park ルディックパーク



遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。
エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

Lilou de chouchou リルデシュシュ



いつまでもかわいく輝いていたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。
エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

DAISY MERRY デイジーメリー



大人の心と少女の心を持ち合わせたいくつになってもかわいくオシャレをしたい女性に向けて…
かわいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのりガリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライスで提案します。

Recherie リシェリエ



「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

木糸土 モクシド / Hare no hi ハレノヒ



《木糸土》木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

《Hare no hi》「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート。ライフスタイルを提案します。

GAL FIT ギャルフィット



「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

suzutan スズタン



「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

Re-J リジェイ / SUPURE スプル



《Re-J》「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした「大人カジュアル」を提案するラージサイズSHOPです。

《SUPURE》「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にラージサイズSHOPです。

NOÉMIE ノエミー



普段も特別な日も可愛くいたい。扉を開くたびに「ときめきを感じる」お洋服で、クローゼットをいっぱいになりたい。そんな、あなたの願いに寄り添えるように「愛らしくて愛嬌のある魅力的な女の子」をテーマに、お砂糖菓子みたいな甘さと、ちょっぴりダークでかわいらしさのあるお洋服をあなたに提案します。

アパレル事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当第2四半期末店舗数
レギュラー店舗	0	45	△11	156
ルディックパーク	0	3	0	39
リルデシュシュ、デイジーメリー	0	2	0	8
リシェリエ、ドスチ	0	5	△4	25
木糸土・ハレノヒ(※1)	0	4	0	8
ギャルフィット、スズタン他	0	31	△7	76
ラージサイズ店舗	0	11	0	10
アパレル事業合計	0	56	△11	166

(※1) 第36期より「木糸土・ハレノヒ」をアパレル事業に含んでおります。

雑貨事業の概況

General Condition of Miscellaneous Goods Business

雑貨事業におきましては、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」の出店が進行しており、コロナ禍においても前期末の128店舗から141店舗へと着実に増加を続けております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、「illusie300」を3店舗出店、アパレル業態から「illusie300」への業態変更を11店舗実施しており、収益の二本柱体制に向け積極的な事業構造改革を進めております。今後も「illusie300」に経営資源を集中し、商品MD(マーチャндаイジング)のブラッシュアップを図るとともに、話題性ある商品を提供してまいります。

illusie300 イルーシーサンマルマル



「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

INCENSE インセンス



「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」。自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

雑貨事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当第2四半期末店舗数
イルーシーサンマルマル	3	1	11	141
シベレット	0	0	0	2
インセンス	0	5	0	9
雑貨事業合計	3	6	11	152
複合店(※2)	0	0	0	3
全社合計	3	62	0	321

(※2) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

四半期連結財務諸表

Financial Statements

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

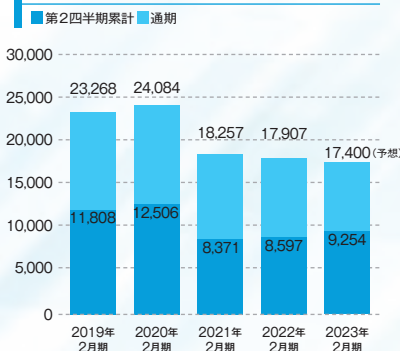
	当第2四半期連結会計期間末 (2022年8月20日現在)	前第2四半期連結会計期間末 (2021年8月20日現在)	前連結会計年度 (2022年2月20日現在)
■資産の部			
流動資産	5,961	4,825	5,707
固定資産	3,278	4,658	3,510
有形固定資産	1,049	1,298	1,064
無形固定資産	67	100	83
投資その他の資産	2,161	3,258	2,363
資産合計	9,239	9,483	9,218
■負債の部			
流動負債	7,305	5,463	7,498
固定負債	788	2,716	1,301
負債合計	8,094	8,180	8,799
■純資産の部			
株主資本	1,132	1,270	382
資本金	100	100	100
資本剰余金	2,249	1,981	1,981
利益剰余金	△1,212	△786	△1,673
自己株式	△4	△25	△25
新株予約権	13	33	35
純資産合計	1,145	1,303	418
負債及び純資産合計	9,239	9,483	9,218

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

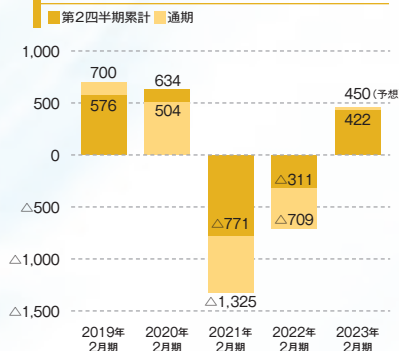
(単位:百万円)

	当第2四半期連結会計期間 [2022年2月21日から 2022年8月20日まで]	前第2四半期連結会計期間 [2021年2月21日から 2021年8月20日まで]
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	△253	△848
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	302	140
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー	265	131
現金及び現金同等物の増減額	314	△576
現金及び現金同等物の期首残高	2,209	2,135
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,524	1,559

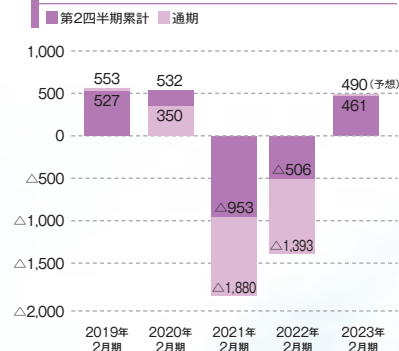
売上高 (百万円)



営業利益(損失) (百万円)



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益(損失) (百万円)



企業データ

Corporate Data



会社概要 (2022年8月20日現在)

社名 パレモ・ホールディングス株式会社
 設立 1984年11月22日
 資本金 1億円
 本社所在地 〒450-0002
 愛知県名古屋市中村区名駅五丁目27番13号
 名駅錦橋ビル6F
 従業員数 1,745名(グループ含む)
 (ナショナル社員142名、エリア社員他1,603名)
 事業内容 事業子会社の経営管理等
 ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2022年8月20日現在)

代表取締役社長 福井正弘
 取締役 香西雅弘
 取締役 太田直人
 取締役 永田昭夫
 取締役 赤塚憲昭
 常勤監査役 土田新一郎
 監査役 今枝剛
 監査役 川口直也

注: 取締役のうち、永田昭夫、赤塚憲昭の両氏は社外取締役であります。
 監査役のうち、今枝剛、川口直也の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2022年8月20日現在)

発行可能株式総数	普通株式	27,350,000株
	A種優先株式	10,000株
発行済株式の総数	普通株式	12,051,384株
	A種優先株式	265株
株主数	普通株式	10,159名
	A種優先株式	1名

大株主 (2022年8月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社西松屋チェーン	2,087	17.35
楽天証券株式会社	552	4.59
株式会社SBI証券	408	3.39
日本証券金融株式会社	364	3.03
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	324	2.69
トラストワークスプランニング株式会社	285	2.37
パレモ従業員持株会	194	1.61
個人株主A	183	1.52
JPモルガン証券株式会社	165	1.37
個人株主B	138	1.15

注: 持株比率は、当事業年度の末日における発行済株式(自己株式を除く。)の
 総数に対する割合であります。

株主構成 (2022年8月20日現在)

